



在宅医療と

外来とのコラボ

最近、総胆管結石、胆管炎になった80代の患者さんがいました。

以前入院したときには一時的にご自身の状況がわからなくなり、点滴を自分で抜いてしまったりして入院継続が難しい患者さんでした。そこで友人の外科医と私で、知り



松原 清二医師
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

合いの先生の病院で胆道の通りを良くするストロークのステントを胆道の入り口に入れる治療を日帰りで行い、その日の夜に私がまた回診に行くことに対応しました。

手技中患者さんは胃カメラを飲んだ状態で、うつ伏せで30分ほどかかるため、忍耐が求められる。帰宅後は、処置されたことを忘れてしまうほどのストレスだったようでした。

しかし翌日にはいつも通りの表情で、数日間の点滴の後、日常生活も速やかに回復しました。

恐らく前の入院の経過からすると、もし入院での処置や管理を行った場合は、残念ながら我を見失い、点滴も外してしま

っています。それに加えて、私を支えてくれている友人やスタッフの力添えがあり、自分の想像よりも進んだ医療水準で患者さんの自宅療養を支えられるようになっていきます。

も抑制のため寝たきりの状態になってしまったか、もしも本来自来このケースは入院で治療するものですが、後から振り返れば、患者さんに日帰りで出来る治療を提供できて良かったと思えました。

自分自身、今後どういった医療がご自宅にいる方に提供出来るかと考えると、在宅医として気が持ちが高揚するところがあり、ひいては患者さんにも医療において恩恵を還元出来るのではないかと信じています。

高齢者医療で大切なことは、その人らしさを失わないことを軸に治療をしていくことです。高齢者は環境の変化に大変弱く、自宅で出来る医療は自宅で行うことが在宅医療で求められています。また医療機器のコンパクト化や、在宅医療で使い勝手の良い薬剤も出てき

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
■電話対応：午前9:00～午後6:00
■定休日：土日（祝日は診療）
■訪問地域：西東京市、東久留米・新座・練馬の一部

↑ 診療相談はこちらから

まつばらホームクリニック 検索